

令和7年（2025年）11月6日

保護者の皆様

札幌市立苗穂小学校

校長 岡田 一伸

## 令和7年度 文部科学省「全国学力・学習状況調査」の結果について

向寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、今春に6年生児童を対象に実施しました「全国学力・学習状況調査」の本校の結果についてお知らせします。この結果を今後の授業や教育活動の計画に役立てていく所存です。なお、本調査により測定できるのは学力の一側面であることにご留意くださいますようお願いいたします。

児童質問紙より ～生活習慣・学習状況で全国平均より特に肯定的な回答が多かった質問事項～

\*（ ）は、全国の数値

- 学校に行くのは楽しいと思いますか 93.9%(86.5%)
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか 95.9%(92.2%)
- 自分には、よいところがあると思いますか 93.8%(86.9%)
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか 100%(93.1%)
- 読書は好きですか 79.6%(69.7%)
- 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか 97.9%(90.4%)
- 算数の勉強は好きですか 65.3%(57.9%)
- 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか 100%(91.6%)
- 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか 87.8%(79.9%)
- 理科の授業では、問題に対して答えがどのようになるのか、自分で予想(仮説)を考えていますか 93.9%(85.7%)
- これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか 89.8%(80.6%)

「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがある」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い」などの項目で肯定的な回答が非常に多い結果となりました。子ども同士や教師と子どもたちの温かい関わりによって学校生活や日々の生活に楽しさや幸せを感じたり、自己肯定感が高まったりしている子どもたちが多いのではないかと考えられます。苗穂小学校の生活の合言葉「あったかハート」を今後も大切にしながら、子どもたちの教育活動を進めてまいります。

学習面においては、教科を問わず「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つ」の項目で肯定的な回答が多い結果となりました。学ぶことに意義を見いだしながら日々学習に取り組んでいる子どもたちが多いのではないかと考えられます。

\* ( ) は、全国の数値

- 将来の夢や目標をもっていますか 75.5%(83.1%)
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか 75.5%(81.7%)
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか 77.5%(84.9%)
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか 77.6%(82.5%)
- 国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか 64.9%(81.8%)
- 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか 59.1%(65.5%)
- 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか 77.6%(82.3%)

今回の結果からは、学びの過程において、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題が見られました。自分が導き出した考えのみにとどまることなく、他者との関わりや実生活との結び付きを大切にしたい授業、そして、すべての教科の学習において、よく分かる授業と同時に子どもが学ぶ楽しさや意味を感じられるよう学習指導の改善に努めてまいります。分からないことがあっても粘り強く課題に取り組むことや自分の学びを見つめ直し、次につなげていく力を育てていきます。

また、目的をしっかりと捉えた上で、自分の考えをしっかりと表現できる力を身に付けられるように、日々の発表やノート指導、ICTの効果的な活用にも力を入れていきます。

生活面においては、自分で目標を立てて取り組み、行動し、振り返るという過程を大切にすることで、目標をもつ大切さや困難なことに対しても挑戦していく態度を育成していきます。そのためには教育相談（三者懇談）の実施やキャリアパスポートを活用し、子どもたちの目標を共に確認し、達成するための方法を一緒に考えていくサポートに力を注いでいきたいと考えます。

#### 《その他》

- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか  
⇒2時間以上の割合が、全国は24.9%に対し、本校は24.5%と同程度となっています。
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか  
⇒2時間以上の割合が、全国は21.5%に対し、本校は、26.5%となっています。
- 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。  
⇒1時間以上の割合が、全国は19.6%に対し、本校は16.3%となっています。
- あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）  
⇒100冊以上の割合が、全国は30.9%に対し、本校は46.9%となっています。

# 国 語

## 本校の概要

### 知識及び技能

#### 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

☆全国平均を上回っている。

#### 【情報の扱い方に関する事項】

☆全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

#### 【我が国の言語文化に関する事項】

☆全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

### 思考力、判断力、表現力等

#### 【話すこと・聞くこと】

☆全国平均を上回っている。

#### 【書くこと】

☆全国平均を下回っている。

#### 【読むこと】

☆全国平均を上回っている。

## 今回の調査における課題

●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

●時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと。

●話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

●目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

## 改善の方向

○学年別漢字配当表に示されている漢字を、読み方や字形に注意して繰り返し練習することにとどまらず、日常的に文章の中で正しく使うことができるようにする学習活動の充実。

○複雑な事柄を分解して捉えたり、多様な内容を要素ごとに分類したりする際に、短い語句で端的に表し、図で表しながら考えをまとめる学習活動の充実。

○時間の経過や世代による言葉の変化について、具体的な事例や他者との対話を通じて、言語の多様性を理解する学習の充実。

○話し手の考えを正確に捉え、自分の考えとの共通点や相違点を明確にしながら、論理的に考えを深めていく対話的な学習の充実。

○書く目的や読み手の意図を明確にした上で、書く内容の中心を整理し、伝えたいことが効果的に伝わるような書き方を工夫した指導の充実。

○叙述に基づき事実と意見などを区別し、文章の構成を捉えて要旨を把握するための、論理的な読解力を育む指導の充実。

# 算 数

## 本校の概要

### 【数と計算】

☆全国平均を上回っている。

### 【図形】

☆全国平均を上回っている。

### 【変化と関係】

☆全国平均を上回っている。

### 【データの活用】

☆全国平均を上回っている。

## 今回の調査における課題

●分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること。

●平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること。

●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述すること。

●円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること。

## 改善の方向

○分数の加法における共通単位分数の意味理解を深め、図や言葉による説明を通して思考力・表現力を育成する学習活動の充実。

○辺の長さや角の大きさ、辺の位置関係に着目して、図形の構成の仕方について考察する活動の充実。

○日常の事象について、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見だし、それらの数量の関係を把握して問題を解決する活動の充実。

○日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見出したことを表現できるような学習活動の充実。

# 理 科

## 本校の概要

### 【「エネルギー」を柱とする領域】

☆全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

### 【「粒子」を柱とする領域】

☆全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

### 【「生命」を柱とする領域】

☆全国平均を下回っている。

### 【「地球」を柱とする領域】

☆全国平均を上回っている。

## 今回の調査における課題

●電流がつくる磁力について、電磁石は巻数によって変わることを

●水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること。

●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること。

●氷が溶けてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること。

## 改善の方向

○探究的な実験活動を通じて、条件を制御しながら論理的に考察する力を育むことができるような教師の関わりの充実。

○結論を見いだす過程において、結果そのものと、そこから言えること（考察）を区別して、より妥当な考えをつくりだすことができるよう、子どもの表現を整理する教師の関わりの充実。

○問題を見いだす力を育むために、観察、実験の結果を比較して、差異点や共通点を基に、具体的な条件に着目し、一人一人が見いだした問題をノートに書くなどの、思考し表現する活動の充実。

○水の三態変化や水の循環について、実験や観察を通して実感を伴いながら、その科学的な根拠を概念的に理解する学習活動の充実。